

# 高次脳機能障害への対応の現状と今後の連携に関するアンケート調査報告

2020年10月8日

## 要約

県内の脳外科、脳神経内科、精神科、リハビリ科を有する111病院に対して、高次脳機能障害への対応に関するアンケート調査を実施しました。44病院から回答をいただき、回収率は39.6%でした。「高次脳機能障害者から相談・診療経験がある」と回答した医療機関が65.9%、全般的知能検査が70～80%、神経心理学的検査が40～60%の病院で何らかの検査がなされていました。自動車運転能力評価は11病院(25.0%)で可能で、各圏域に1つ以上の病院があります。高次脳機能障害に対する認知リハは、24病院(54.5%)で行われていましたが、小児の認知リハは2病院(4.5%)のみでした。診断書作成、介護・福祉サービスの提供は県内4圏域で可能でしたが、就労・就学支援まで行える病院は少ないのが現状です。当センターの各事業の周知度は小児期に特化した支援チームの存在以外は低い結果でした。当センターとの今後の連携では「紹介したい」が最も多く29病院(65.9%)、次いで検査協力が7病院(18.2%)、リハ訓練協力が5病院(11.4%)でした。当センターへのご意見の中に事例の検査データなどの情報共有の提案などがありました。

今回のアンケート調査結果を受けて、①地域で就労・就学支援を行う体制作りのために、当センター主催の就労生活支援ネットワーク会議や各種研修会等への各圏域の医療機関のスタッフ、特に就労支援スタッフへの参加を呼びかけること、②各圏域の医療機関との情報共有を目的としたオンラインでの事例検討会の開催の検討、③高次脳機能検査やリハビリ協力可能な病院との連携体制作りを検討したいと思います。

## はじめに

富山県高次脳機能障害支援センターが発足してから13年間経過しました。この間、県内外の医療機関、保健福祉機関、行政および家族会の方々から絶大なる支援をいただきながら運営してきました。おかげさまで、相談件数は毎年1000件を超え、高次脳機能障害の評価やリハビリテーション(以下、リハビリ)、就労・就学支援、生活支援、研究などを順調に実施しております。この間、県内医療・福祉機関では機能的再編が進み、高次脳機能障害者を取り巻く情勢も変化してきており、改めて県内医療機関での高次脳機能障害の診断、リハビリ、福祉的支援の現状についてのアンケート調査を行い、当センターの今後の指針の糧にいたしたいと思っております。

コロナ禍でご多忙の中、多くの医療機関からご協力を頂きました。深く感謝いたしますと同時に、今回のアンケート調査結果を報告させていただきます。

### 1. アンケート調査の目的

県内医療機関での高次脳機能障害の診断、リハビリ、福祉的支援の現状を知ることで、県内の高次脳機能障害者への支援体制の課題を明らかにし、当センターの今後の進むべき方向を考察することを目的に調査を行いました。

## 2. 調査対象・方法

富山県内の公的、私立病院で脳外科、脳神経内科、精神科、リハビリ科を有する 111 病院に対して、各地域での高次脳機能障害への対応に関するアンケート調査を実施しました。アンケート票（別紙）は 14 項目で、回答は選択、または自由記載としました。アンケート用紙を各病院に郵送し、2020 年 7～9 月上旬までの期間に FAX 又は郵送にて回収しました。なお、富山県リハビリテーション病院・こども支援センターも調査対象に含まれています。

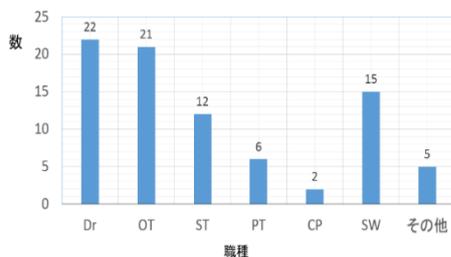
## 3. 結果および考察

### 1) 回収率

圏域	市町村名	郵送数	回収数	回収率(%)
新川圏域	朝日町、入善町、黒部市、魚津市	18	6	33.3
富山圏域	滑川市、上市町立山町、舟橋村、富山市	48	23	47.9
高岡圏域	射水市、高岡市、氷見市	27	10	37.0
砺波圏域	砺波市、小矢部市、南砺市	18	6	33.3
合計		111	44	39.6

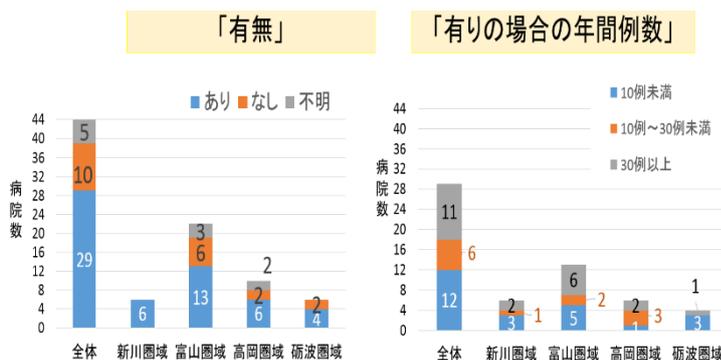
全体の回収率は 39.6%でした。

### 2) 回答者（複数回答）



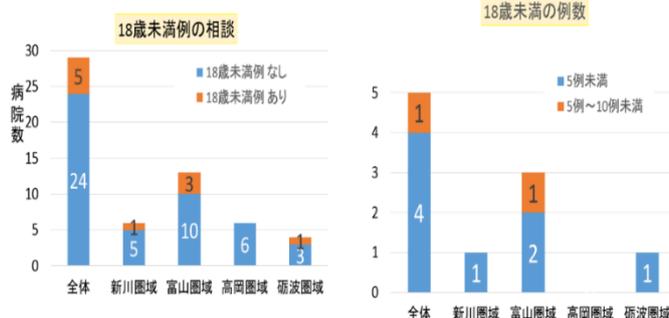
本アンケートには、延べ 83 名の方が回答していただきました。医師と作業療法士(OT)の方が最も多い回答者でした。

### 3) 「貴院では今まで高次脳機能障害を主たる症状とする方の相談をお受けしたり、診療された経験はありますか」



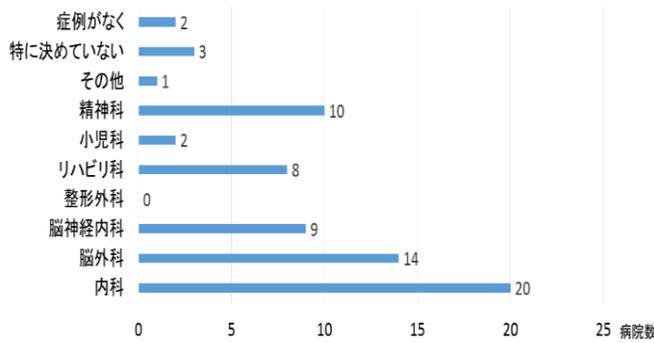
「高次脳機能障害者の相談・診療経験がある」と回答した医療機関が、29 病院 65.9%であった。新川圏域では回答病院のすべてに「相談・診療経験あり」との回答でした。「あり」と答えた病院では診療例数は年間 30 例以上の病院が 37.9%もあり、各圏域にまたがっていることがわかります。

### 「そのうち 18 歳未満発症の小児例は年間何例ほどありますか」



回答のあった 44 病院中 5 病院のみが小児期発症の高次脳機能障害者の相談・診療の経験を持っていました。高岡圏域では「あり」の病院はありません。小児例の経験のある病院でも年間 5 例未満がほとんどでした。

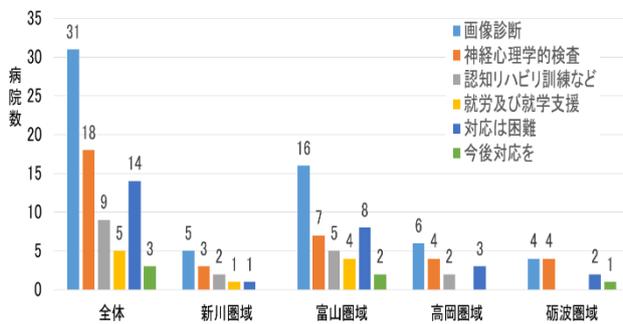
4) 「高次脳機能障害の症例が貴院に来院した際、どの診療科で対応していますか、(複数回答可)」



内科での対応が多く、次いで脳外科>精神科>脳神経内科>リハビリ科の順でした。その他では「原因疾患により各科受診後、必要に応じてリハ科へ紹介」との記載がありました。

5) 「当センターから診断、検査依頼の目的で高次脳機能障害の方を紹介させて頂いた場合、貴院ではどの程度の対応が可能でしょうか、(複数回答可)」

①対応可能な病院数

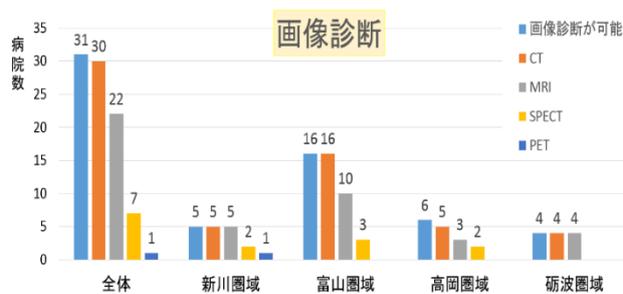


画像診断は 31 病院 (70.5%) の病院で可能、神経心理学的検査は 18 病院 (40.9%) でした。この 2 つの検査とも可能な病院は各圏域に存在していました。

認知リハビリ訓練、精神科カウンセリングなどが可能な病院は県内全域で 9 病院 (20.5%) であり、砺波圏域にはありませんでした。

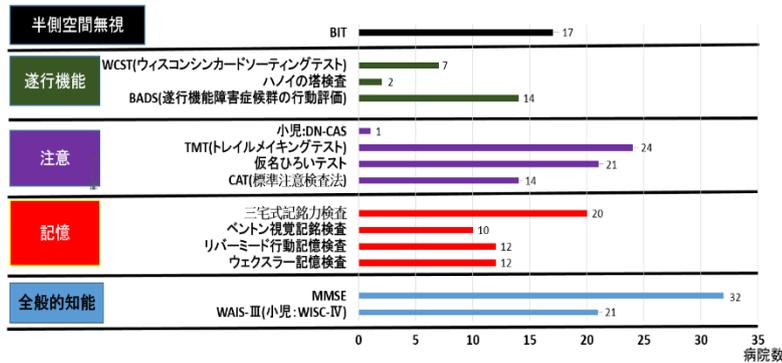
就労や就学支援が可能な病院は県内では 5 病院 (11.4%) であり、検査ができて福祉的支援まで行える病院は少ないことがわかります。また、今後、対応体制を検討する病院も少ない現状でした。

②画像診断の内容



画像診断が可能な病院は 70.5% であり、CT, MRI 検査の可能な病院はすべての圏域に存在していました。

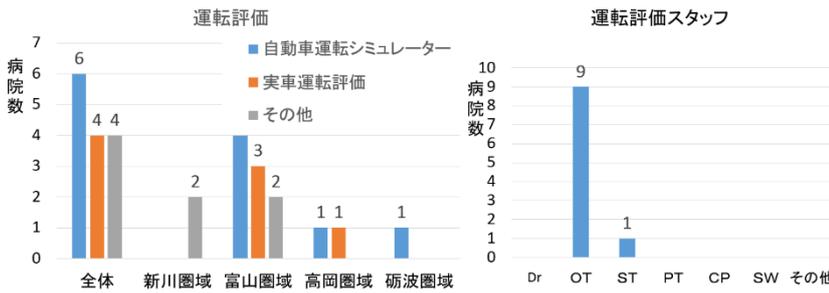
③神経心理学的検査の実施状況



全般的知能検査では MMSE(Mini Mental State Examination)が多く、32 病院 (72.7%) で、WAIS-III (Wechsler Adult Intelligence Scale 3rd edition) を行っている病院は 21 病院 (47.7%) でした。記憶検査では三宅式記憶力検査が、注意機能検査では TMT(Trail Making Test)、遂行機能検

査ではBADs(Behavioural Assessment of the Dysexecutive Syndrome)が多く施行されていました。

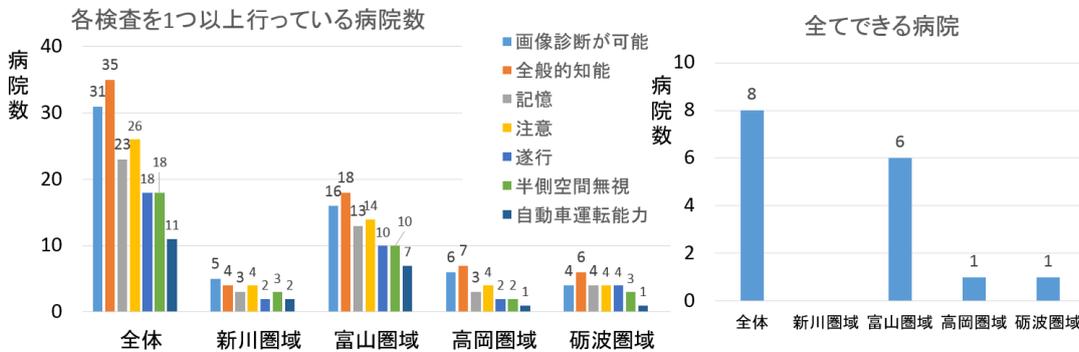
④自動車運転評価およびその評価スタッフ



自動車運転ではシミュレーターでの評価が可能は6病院(13.6%)、「その他」ではSDSA(Stroke Drivers' Screening Assessment Japanese Version)との回答が3病院、明記なしが1病院でした。評価はほとんどOTが行っていました。

注) Dr: 医師 OT: 作業療法士 ST: 言語聴覚士 PT: 理学療法士 CP: 臨床心理師 SW: ソーシャルワーカー

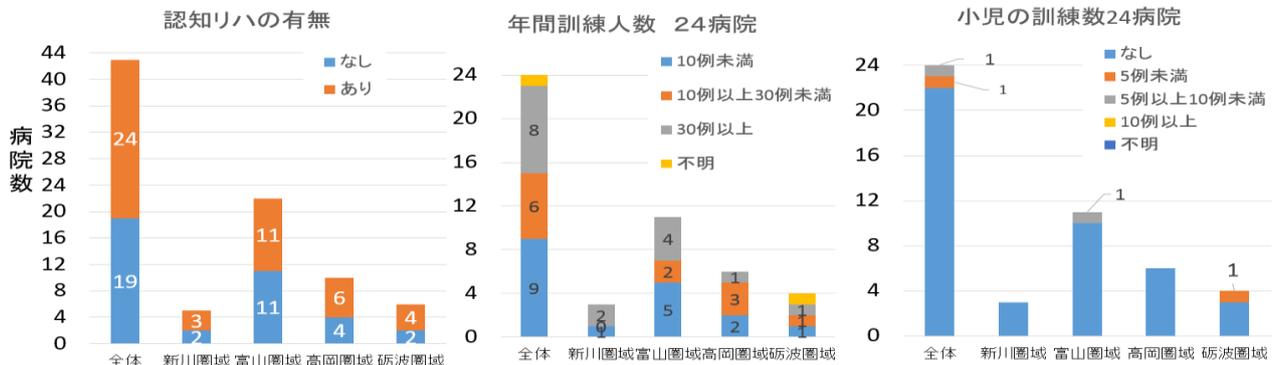
⑤画像、全般的知能、記憶、注意、遂行、半側空間無視、運転能力などの検査を各々1つ以上行っている病院、およびすべての検査を1つ以上行っている病院



画像検査が可能であるのは31病院(70.5%)、全般的知能検査は35病院(79.5%)で、各種の神経心理学的検査が可能であるのは40~60%の病院でした。自動車運転能力評価は11病院(25.0%)で可能であり、各圏域に1つ以上の病院があることが判明しました。

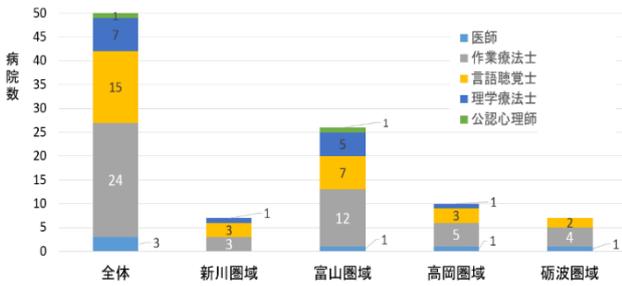
すべての検査を総合的に行える病院は、新川圏域ではなく、富山6病院、高岡1病院、砺波1病院でした。

6) 「高次脳機能障害の方に対し、認知リハビリ訓練を実施していますか」



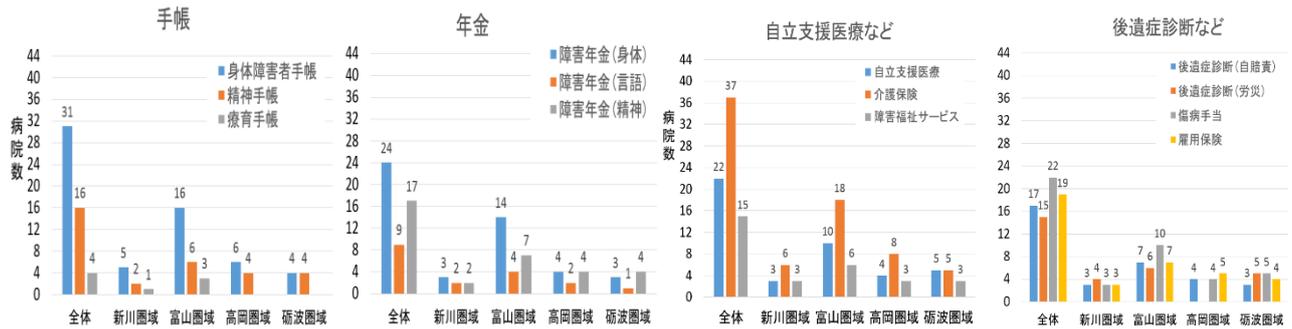
認知リハは、半数以上の24病院(54.5%)で行われており、年間訓練数が30例以上であったものが8病院(18.2%)でした。「あり」と答えた24病院中、小児の認知リハは県内では富山と砺波の2圏域2病院(4.5%)のみであり、極めて少ないことがわかりました。

「成人・小児での認知リハビリ訓練のスタッフを以下より選んでお答え下さい。(複数回答可)」



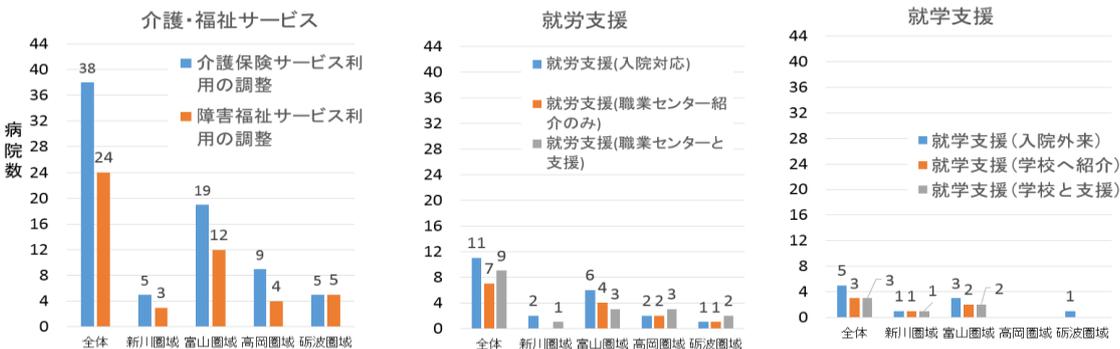
認知リハビリ訓練の担当者としては OT>ST>PT >Dr>公認心理師の順でした。OT と ST の両方あるいはどちらかが担当しているのは 12 病院で、また、PT 単独で担当する病院はなく、OT, ST とチームで担当しているのが 7 病院でした。

7) 社会保障制度に関する診断書作成をしていますか。過去 1 年間にしたことがあるものをすべて選んでください。



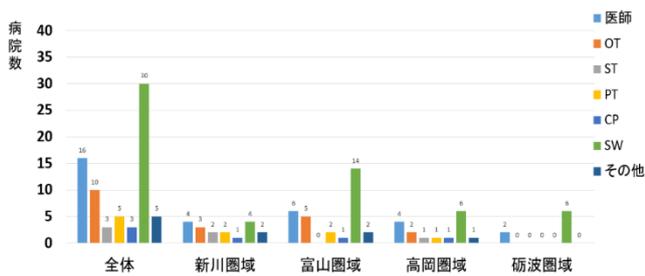
障害者手帳では身体障害が多く、次いで精神障害者保健福祉手帳であり、すべての圏域で診断書作成が可能でした。障害年金の診断書でも身体障害が多く、次いで精神、言語で、すべての圏域で診断書作成が可能でした。支援サービス部門の診断書では介護保険>自立支援医療>障害福祉サービスの順であり、後遺症診断も含め、すべての圏域で診断書作成が可能でした。

8) 「社会参加支援について、過去 1 年間にしたことがあるものをすべて選んでください」



介護保険サービス利用の調整は 38 病院 (86.4%) でなされていました。就労支援では入院・外来リハビリなど医療機関のみでの対応が 11 病院 (25.0%)、職業センターなど就労支援機関への紹介のみが 7 病院 (15.9%)、職業センターなど就労支援機関とともに支援が 9 病院 (20.5%) でした。就学支援については入院・外来リハビリなど医療機関のみでの対応が 5 病院 (11.4%)、学校や特別支援教育センターなどへの紹介のみが 3 病院 (6.8%)、学校や特別支援教育センターなど専門機関とともに支援が 3 病院 (6.8%) でした。高岡圏域では就学支援をしていると答えた病院はありませんでした。

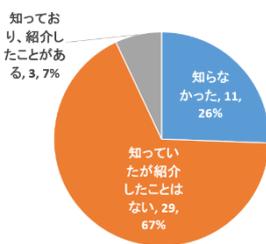
「その社会参加支援の主たる担当者は誰ですか」



SW が最も多く、次いで Dr > OT, PT でした。

注) Dr; 医師 OT; 作業療法士 ST; 言語聴覚士 PT; 理学療法士 CP; 臨床心理師 SW; ソーシャルワーカー

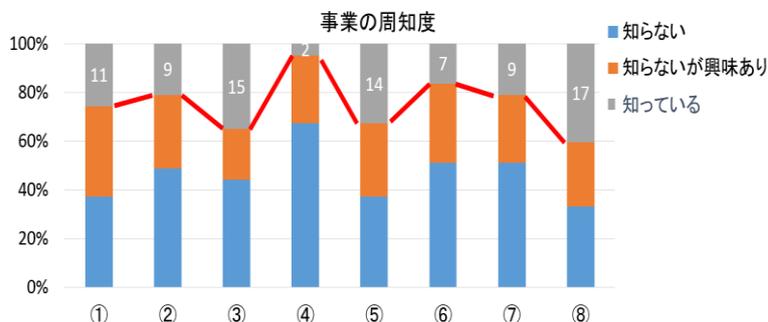
9) 「当センターでは成人の高次脳機能障害者のみならず、小児の高次脳機能障害者に対しても小児科医、小児担当の作業療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカーが評価や復学支援を行っています。ご存知でしたか」



「知っていた」は 32 病院 (72.7%) でした。また、紹介をいただいたことのある病院は 3 病院 (7%) でした。

10) 当センターおよび関連施設では高次脳機能障害に特化した独自の事業を行っています。以下の事業についてお答えください。

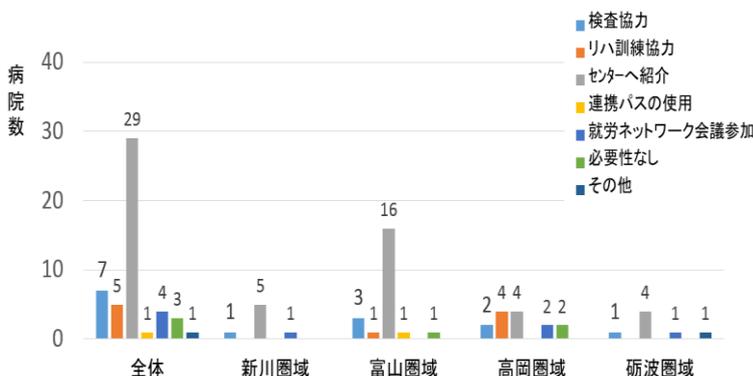
当センターおよび関連施設では高次脳機能障害に特化した以下の事業を行っています。これらの事業



の医療機関での周知の程度を調査しました。当センターの事業の周知率は 30~40% でした。特に④こども家族グループ・キッズプログラムの周知率は低い値でした。「知らないが興味あり」は 20~40% の病院で回答されており、今後の広報活動の必要性を感じます。

①生活版ジョブコーチ ②グループ訓練 ③家族教室 ④こども家族グループ ⑤ピアカウンセリング  
⑥「高次脳機能障害地域連携バス」の発行 ⑦就労生活支援ネットワーク会議の開催 ⑧自立訓練(機能訓練・生活訓練)

11) 「今後当センターは、県内の医療機関との更なる連携を深めていきたいと考えています。貴院では、当センターとの連携についてどのように考えておられますか」

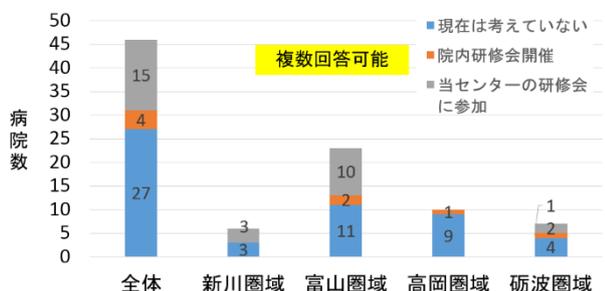


は、当センターとの連携についてどのように考えておられますか」

「当センターへの紹介」が最も多く 29 病院 (65.9%)、次いで検査協力が 7 病院 (18.2%)、リハ訓練協力が 5 病院 (11.4%) でした。「検査協力については各圏域に 1 つ以上の病院が手をあ

げていただいています。高次脳機能障害地域連携パスの発行、就労生活支援ネットワーク会議の開催の事業にはほとんどの病院は興味がないようです。

1 2) 「当センターでは高次脳機能障害に関する一般向けの研修会と専門職向けの研修会をそれぞれ年1回開催しています。今後の貴職員の研修体制についてお聞きします」



27 病院 (61.4%) が高次脳機能障害に対する職員研修体制を考えていないとの返事でした。当センターの研修会の参加が 15 病院 (34.1%) であり、決して高くはありませんでした。「当センターの研修会に参加」と回答した県内の医療機関への案内の徹底を検討する必要があります。

1 3) その他、高次脳機能障害への貴院での具体的取り組みや予定があればご記入下さい

- ・ 認知症の方が多く、高次脳機能障害との区別が困難です。(富山圏域)
- ・ ADL が自立していて、自宅退院ができそうでも高次脳機能障害がある場合は運転再開支援目的でリハビリ病院へつないでもらっている。(富山圏域)
- ・ 当院でも支援ができればと考えますが、相談件数などにもよるため、状況に応じて検討できればと思います。(富山圏域)
- ・ 現在のところ、特にありませんが、圏域内でも運転評価に向けた取り組みが必要であると感じております。(高岡圏域)
- ・ ST 評価を充実させたい (高岡圏域)

1 4) 当センターへのご意見、ご要望があればご記入下さい

- ・ 高次脳機能障害者の対応について、情報共有し、知識を深めて支援に活かしていきたい。(新川圏域)
- ・ 泌尿器科として高次脳機能障害の患者様の治療に、協力できる事があれば、協力してゆきたい。(富山圏域)
- ・ 復職希望者に関して急性期病院から貴センターへの紹介方法(評価における基準値等)と教えていただけると助かります。(富山圏域)
- ・ 富山県高次脳機能障害支援センターを見学させていただきたい。そして連携をとりレベルアップに努めていく。(富山圏域)
- ・ 当院で行っている検査結果の具体的な理解解釈など、文書でコンサルできると患者さんへの説明や自分の見通し等チェックできてありがたいかもしれません (砺波圏域)

4. 結語

- 1) 相談・診療・各種検査を行うことは、県内4圏域で可能であることが判明しました。しかし、小児例の診断、リハビリ、就学支援に対応している病院は富山圏域以外には少なく、当センターの小児部門での評価、支援体制の一層の充実が必要です。また、自動車運転能力評価には地域差がみられ

ますので、今後とも専門研修会などを通じて自動車運転能力評価のノウハウを共有できればと思っています。

- 2) 各圏域に1つ以上の病院が、検査協力可能であると表明されました。また認知リハビリを行うことは、県内4圏域で可能であり、今後、これらの病院と連携を密にして当事者が住む地域での検査や支援が可能となる体制を構築していきたいと思います。
- 3) 診断書作成や介護・福祉サービスの提供は県内4圏域で可能となっていますが、就労・就学支援まで行える病院は少ないのが現状でした。医療的ニーズの強い病院では、そうした支援は病院単独では困難であり、地域の就労支援関係機関や市町村教育委員会との連携が必要と思われます。地域での連携をスムーズに行うためにも、病院に勤務するスタッフの方々の就労生活支援ネットワーク会議への参加を促すように働きかけたいと思います。同時に、地域のリハビリ専門病院を中心とした高次脳機能障害者支援のネットワーク作りにも期待しています。
- 4) 当センターの事業の周知度は小児期に特化した支援チームの存在以外は低く、今後は病院関係者への広報活動の必要性を痛感させられました。
- 5) 当センターに最も期待されていることは、高次脳機能障害者の紹介先としての役割であり、県内の病院、福祉機関の期待に応える活動を今後も展開していきたいと思います。復職希望者の急性期病院からの紹介において、当事者の方の高次脳機能障害の評価での基準値、例えばカットオフ値を定める等はしておらず、就労希望があれば当事者の障害程度、就労条件の希望などを総合的に検討し、最もふさわしい職場を提案するようにしております。
- 6) 当センターへのご意見、ご要望を受け、各圏域の医療機関との情報共有を目的としたオンラインでの事例検討会の開催などを準備しています。

ご多忙中のところアンケート調査にご協力をいただきました病院関係者の方々に対してこころから感謝いたします。当センターの各種事業や支援体制につきまして、今後更なる充実を図っていきたく思います。今後ともご指導、ご協力の程、よろしく願いいたします。

2020年10月8日

富山県高次脳機能障害支援センター センター長 野村忠雄

【本アンケート調査報告に関する問合せ先】

〒931-8517 富山市下飯野 36 番地

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

富山県高次脳機能障害支援センター 水和・折谷

電話：076-438-2233（内線 802）

FAX：076-438-7218

Mail：[koujinou3@toyama-reha.or.jp](mailto:koujinou3@toyama-reha.or.jp)

(別紙)

高次脳機能障害への対応の現状と今後の連携に関するアンケート調査 (2020年度)

1. 最初に、回答を担当された方についてご記入願います。(多職種、複数名回答可)

- 医療機関名 ( )
  - 職種  医師 ( )科  作業療法士  言語聴覚士  理学療法士
  - 公認心理師・臨床心理士  ソーシャルワーカー  その他 ( )
- 差し支えなければ回答者のご氏名をご記入下さい ( )

**※ご注意!**

注1) 今回のアンケート調査の対象には“認知症”や“失語症”のみを有する方は含みません。

注2) いずれの回答も担当者個人単位ではなく、医療機関単位でご記入ください。

2. 貴院では今まで高次脳機能障害を主たる症状とする方の相談をお受けしたり、診療された経験はありますか。なおここで扱う高次脳機能障害は行政的に定義された診断基準(別紙1)に該当するものとします。以下、該当する項目の□に✓(チェック)をご記入ください。

- あり
- なし ➡ 質問3にスキップしてください。
- 不明 ➡ 質問3にスキップしてください。

2-2. 「あり」の場合、例数は年間何例程ありますか。

- 10例未満
- 10例以上30例未満
- 30例以上
- 不明

2-3. そのうち18歳未満発症の小児例は年間何例ほどありますか。

- なし
- 5例未満
- 5例以上10例未満
- 10例以上
- 不明

3. 高次脳機能障害の診断について質問させていただきます。高次脳機能障害の症例が貴院に来院した際、どの診療科で対応していますか、お答え下さい。(複数回答可)

- 内科  脳外科  脳神経内科  整形外科  リハビリ科  小児科
- 精神科  その他 ( )
- 特に決めていない  対応例がないのでわからない  不明



⑤ 半側空間無視の検査

BIT（行動性無視検査）

主たる担当者： 医師（                      科）     作業療法士     言語聴覚士  
 理学療法士     公認心理師・臨床心理士     ソーシャルワーカー  
 その他（                      ）

⑥ 自動車運転能力評価

自動車運転シミュレーター     実車運転評価     その他（                      ）

主たる担当者： 医師（                      科）     作業療法士     言語聴覚士  
 理学療法士     公認心理師・臨床心理士     ソーシャルワーカー  
 その他（                      ）

6. 高次脳機能障害の方に対し、認知リハビリ訓練を実施していますか。

- なし  
 あり

6-2. 「あり」の場合、例数は年間何例程ありますか。

- 10 例未満  
 10 例以上 30 例未満  
 30 例以上  
 不明

6-3. そのうち 18 歳未満発症の小児例は年間何例ほどありますか。

- なし  
 5 例未満  
 5 例以上 10 例未満  
 10 例以上  
 不明

6-4. 成人・小児での認知リハビリ訓練のスタッフを以下より選んでお答え下さい。（複数回答可）

- 医師（                      科）     作業療法士     言語聴覚士     理学療法士  
 公認心理師・臨床心理士     ソーシャルワーカー     その他（                      ）

これからは福祉的支援についてお聞きします。

7. 社会保障制度に関する診断書作成をしていますか。過去 1 年間にしたことがあるものをすべて選んでください。

- 身体障害者手帳       精神障害者保健福祉手帳       療育手帳  
 障害年金（身体）       障害年金（言語）       障害年金（精神）  
 自立支援医療       介護保険       障害福祉サービス  
 後遺症診断（自賠償）       後遺症診断（労災）       傷病手当       雇用保険（就労可否証明）

8. 社会参加支援について、過去 1 年間にしたことがあるものをすべて選んでください。

- 介護保険サービス利用の調整  
 障害福祉サービス利用の調整  
 就労支援（入院・外来リハビリなど医療機関のみでの対応）  
 就労支援（職業センターなど就労支援機関への紹介のみ）  
 就労支援（職業センターなど就労支援機関とともに支援）  
 就学支援（入院・外来リハビリなど医療機関のみでの対応）  
 就学支援（学校や特別支援教育センターなどへの紹介のみ）  
 就学支援（学校や特別支援教育センターなど専門機関とともに支援）

8-2. その社会参加支援の主たる担当者は誰ですか。

- 医師（                      科）       作業療法士       言語聴覚士       理学療法士  
 公認心理師・臨床心理士       ソーシャルワーカー       その他（                      ）

これからは当センターの事業などについてお聞きします。

9. 当センターでは成人の高次脳機能障害者のみならず、小児の高次脳機能障害者に対しても小児科医、小児担当の作業療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカーが評価や復学支援を行っています。ご存知でしたか。

- 知らなかった。  
 知っていたが紹介したことはない。  
 知っており、紹介したことがある。

